



平成25年3月29日

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター
理事長 村江 清志 様

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター
実用化研究評価委員会
委員長 田中 久隆
(国立大学法人鳥取大学大学院工学研究科)



平成24年度地方独立行政法人鳥取県産業技術センター実用化研究の評価について
(答申)

平成25年3月14日付第201200190821号で諮問のあったこのことについては、下記のとおりです。

記

当実用化研究評価委員会は、当該年度の電子・有機素材分科会、機械素材分科会及び食品開発分科会のそれぞれの評価結果に基づいて、総合評点の平均点が3.0以上の値となる課題については可とし、継続課題についてはその継続を、新規課題についてはその開始を了とするものである。

なお、下記について考慮が望まれる。

- (1) シーズ研究についても、外部評価導入を検討してはどうか。
- (2) センターが行うべきか否か、研究活動としての位置づけ(独創性)を明確にされていると分かり易い。
- (3) 研究成果の出口として、産業波及効果への言及が必要と思う。
- (4) 研究課題は実態に合わせ、分かり易い表現で書いて戴きたい。また、研究中途であっても課題名の変更ができると良い。
- (5) 完了、継続課題の説明では、前年までの質疑応答の概要が分かるが良い。
- (6) 複数年度の場合は、研究進捗の表現は当該年分も含めて表記すると分かり易い。
- (7) 評価点で標準(基準点)があると評価し易い。
- (8) 実用化までの見極めには研究期間が短いと感じられるものや実用化促進研究よりも基盤技術開発研究と考える方が良いものもある。

平成24年度地方独立行政法人鳥取県産業技術センター
実用化研究評価審議結果答申書

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター
実用化研究評価委員会

平成25年3月29日

目 次

- 1 実用化研究評価委員会電子・有機素材分科会 審議結果報告書・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 実用化研究評価委員会機械素材分科会 審議結果報告書・・・・・・・・・・・・ 6
- 3 実用化研究評価委員会食品開発分科会 審議結果報告書・・・・・・・・・・・・ 11



平成25年3月19日

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター
実用化研究評価委員会
委員長 田中 久隆 様

電子・有機素材分科会
分科会長 岡田 三郎



審議結果報告書

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター研究評価委実施要綱に基づき、電子・有機素材分科会の基盤技術開発研究及び実用化促進研究について評価を行いましたので、その審議結果を報告いたします。

1 電子・有機素材分科会開催日程

日 時 平成25年3月5日(水) 午前8時30分～午後4時50分
場 所 地方独立行政法人鳥取県産業技術センター 電子・有機素材研究所
鳥取市若葉台南7丁目1番1号

2 電子・有機素材分科会委員(五十音順)

大村 善彦	大村塗料株式会社 代表取締役社長
岡田 三郎	財団法人くれ産業振興センター コーディネーター
鷺見 育亮	公立大学法人鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科 教授
中村 昌弘	株式会社レクサー・リサーチ 代表取締役
中川 博文	旭東電気株式会社 元執行役員管理部長

※鷺見委員及び中川委員は都合により分科会欠席であったため、評価は他の3名の委員で行った。

3 備考

- (1) シーズ研究についても、外部評価導入を検討してはどうか。
- (2) センターが行うべきか否か、研究活動としての位置づけ(独創性)を明確にされていると分かり易い。
- (3) 研究成果の出口として、産業波及効果への言及が必要と思う。

4 審議結果

評価は研究評価実施要綱第9条から第11条第1項までの規定に基づき行った。各委員による採点及びその集計結果については別資料を参照されたい。

なお、評価コメントは完了課題については今後の課題として残る事項を、継続課題については今後の発展に向けての留意事項を、新規課題については効率的な推進に向けての注意すべき事項を委員間で共通認識としたものとして記載した。

①（基盤技術開発・完了） 因州和紙から作製したカーボンペーパーによる燃料電池ガス拡散層の開発（H23-24） 中期計画関連 地域資源及び有機材料の高度利用技術に関する分野
総合評点：4.33
評価コメント 事業化に向けての共同研究体制の見直しが必要と思う。また、量産方法と体制の確立が重要である。
その他、各委員の主なコメント ・実用化が非常に近いものと思う。 ・要素技術としては、着実な成果を出していると思う。 ・成果の民間への技術移転を進めてもらいたい。

②（基盤技術開発・完了） 新規機能性表面処理剤の開発（H23-24） 中期計画関連 地域資源及び有機材料の高度利用技術に関する分野
総合評点：4.00
評価コメント 目標素材と対象の絞り込み及び市場規模の検討が重要である。
その他、各委員の主なコメント ・初期の目標を達成し、次への展開が期待される。 ・表面処理剤としての製品の可能性は十分にあると考える。 ・市場へのアプローチをどの様に開発していくのかを明確にしてほしい。

<p>③（基盤技術開発・継続） 高速画像処理による複雑特徴抽出解析技術に関する研究（H23-25） 中期計画関連 情報・電子応用技術に関する分野</p>
<p>総合評点：3.78</p>
<p>評価コメント 検査に留まらず、品質向上へのフィードバックが必要である。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目視での検査とスピード及び正確性の比較があるべき。 ・内部欠陥が測定できない難点がある。 ・現場に適用するためには、検査時間の短縮が必要である。 ・照明条件に依存するので、条件設定「汎用性」をどこまで得られているか？

<p>④（基盤技術開発・継続） 作業手順の直感的表現による生産ラインの効率改善に関する研究（H24-26） 中期計画関連 情報・電子応用技術に関する分野</p>
<p>総合評点：3.00</p>
<p>評価コメント 次年度計画及び物品購入は見直しのこと。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産現場で本当に必要とされている技術かどうか疑問がある。 ・動画でのプレゼンが少なく具体性が理解できなかった。 ・昨年、指摘した「適用効果、対象が見えない」問題が、依然残っている。 ・開発内容として、確立した技術が何かわからない。 ・研究開発の独自性が見えない。

<p>⑤（基盤技術開発・新規） 3次元コンピュータグラフィックスを使用した製品検討手法の開発（H25-26） 中期計画関連 県内産業の高付加価値化に資する製品デザイン技術に関する分野</p>
<p>総合評点：3.06</p>
<p>評価コメント 研究開発としての位置付けが不明確である。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内企業に対する波及性に乏しいのでは？ ・プロダクトデザイナーのいない企業への単なる技術支援でしょうか？ ・2年間の研究について検討をお願いしたい。 ・3次元造形(3Dプリンタ)技術の活用くらいのアプローチも必要かと思う。

<p>⑥（実用化促進・新規） 長期耐久性を目指した塗布型ウレタン系表面処理材の開発（H25-26） 中期計画関連 地域資源及び有機材料の高度利用技術に関する分野</p>
<p>総合評点：3.83</p>
<p>評価コメント 研究としての意義を明確にすることが重要である。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン性・意匠性との関係をどうするかも重要な課題と考える。 ・試験だけでなく、研究課題も入れてほしい。 ・検証で発生するであろう問題を想定しておく必要があるのでは？

<p>⑦（実用化促進・完了） LED照明の配光解析技術に関する研究（H22-24） 中期計画関連 情報・電子応用技術に関する分野</p>
<p>総合評点：4.22</p>
<p>評価コメント 産総研標準部門との連携と県外への積極的アピールが重要である。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の商品開発プロセスとして活用されていることは、大きな成果であると考ええる。 ・県内LED産業への寄与は非常に大きく評価できる。 ・着実に成果を出していると思う。

<p>⑧（実用化促進・完了） 環境応答型マイクロカプセルを用いた抗菌性紙の開発（H22-24） 中期計画関連 地域資源及び有機材料の高度利用技術に関する分野</p>
<p>総合評点：3.56</p>
<p>評価コメント 梨袋での実用化普及に努力すること。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁紙への応用は、VOC等の問題もあり、実用性は低いと思う。 ・梨袋への応用は屋外での使用であり、抗菌性、（アザの発生）がもっと顕著であれば採用される可能性がある。 ・実用化へ向かっての取り組み体制を考え直してほしい。

<p>⑨ (実用化促進・継続) スギ材を原材料とした木毛セメント板の開発 (H24-25) 中期計画関連 地域資源及び有機材料の高度利用技術に関する分野</p>
<p>総合評点：4. 17</p>
<p>評価コメント コストと市場性を考慮のこと。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の関連企業は1社しかないが、県内産スギ材の応用範囲が広がるという意味で意義がある。 ・ 前処理(煮沸処理)のコストアップ要素は、実用性の視点で問題はないのか？

<p>⑩ (実用化促進・新規) 発光ダイオードを利用した平面発光型照明の開発 (H25-26) 中期計画関連 情報・電子応用技術に関する分野</p>
<p>総合評点：4. 06</p>
<p>評価コメント 塗料を含めた研究に広げることが重要である。また、研究にスピード感が必要である。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シミュレーションも初年度から、進めてほしい。 ・ 成果としての知財の取り扱いを考慮するとよい。 ・ ユーザーグループの知財を含めた組織を早急に行う必要があると思う。

<p>⑪ (実用化促進・新規) 容器包装リサイクルプラスチックの衝撃強度改善に関する研究 (H25-26) 中期計画関連 地域資源及び有機材料の高度利用技術に関する分野</p>
<p>総合評点：3. 61</p>
<p>評価コメント 研究・技術要素を明確にすることが重要である。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニッチな市場であり、法規制のしほりがある限り、消滅はしないけれども、独創性、進捗性、収益性はあまりないかもしれない。 ・ 研究期間について検討してほしい。



平成25年3月26日

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター
実用化研究評価委員会
委員長 田中 久隆 様

機械素材分科会

分科会長 田中 久隆



審議結果報告書

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター研究評価委実施要綱に基づき、機械素材分科会の基盤技術開発研究及び実用化促進研究について評価を行いましたので、その審議結果を報告いたします。

1 機械素材分科会開催日程

日時 平成25年2月21日(木) 午前8時30分～午後3時20分
場所 地方独立行政法人鳥取県産業技術センター 機械素材研究所
米子市日下1247

2 機械素材分科会委員(五十音順)

大塚 茂	独立行政法人国立高等専門学校機構米子工業高等専門学校 校長補佐
片木 威	株式会社片木アルミニウム製作所 代表取締役社長
田中 久隆	国立大学法人鳥取大学 大学院工学研究科長(兼)工学部長 教授
福山 誠司	独立行政法人産業技術総合研究所 中国センター 中国産学官連携センター 連携主幹
細田 妙子	株式会社細田企画 専務取締役
森脇 孝	協業組合菊水フォーミング 理事長

3 備考

- (1) 研究課題は実態に合わせ、分かり易い表現で書いて戴きたい。また、研究中途であっても課題名の変更ができると良い。
- (2) 完了、継続課題の説明では、前年までの質疑応答の概要が分かると良い。

4 審議結果

評価は研究評価実施要綱第9条から第11条第1項までの規定に基づき行った。各委員による採点及びその集計結果については別資料を参照されたい。

なお、評価コメントは完了課題については今後の課題として残る事項を、継続課題については今後の発展に向けての留意事項を、新規課題については効率的な推進に向けての注意すべき事項を委員間で共通認識としたものとして記載した。

①（基盤技術開発研究・完了） 表面結晶構造を制御したチタンシート被覆複合材料の開発（H23-24） 中期計画関連 無機材料の加工技術、エネルギー関連技術及びリサイクル技術に関する分野
総合評点：3.83
評価コメント 成果普及のためのパンフレット等の作成、関係機関との連携による技術普及に努力すること。実用化プロセスでのコスト検討を行うこと。なお、特許出願、論文化とともに次の研究への発展を期待する。 その他、各委員の主なコメント ・当初目標に対しては、概ね達成していると思われる。 ・医療機器やエネルギー機器への製品実用化を目指して欲しい。 ・機能性評価項目にさらに定量的な要素を加えると、技術シーズとして企業にアピールしやすいと思う。 ・処理可能なサイズなどのデータを提示すると良い。研究継続して欲しい。

②（基盤技術開発研究・継続） 微細ドリルによる高精度・高品質穴加工法に関する研究（H23-25） 中期計画関連 加工技術、計測技術及びシステム化技術の高度化に関する分野
総合評点：4.67
評価コメント 被削材を含めた用途開発研究の進展に期待する。また、他の微細穴加工法との比較、有用性を明確にすること。 その他、各委員の主なコメント ・当初計画通り設定した研究目標に対して、着実に研究成果を上げていると思われる。 ・穴の小径化に対し、求心性が高くなれば実用化にも期待できる。 ・被削材に対する求心性の最適化を行う上での送りとの関係を定式化により汎用性を高めてはどうか。 ・微細ドリルによる高精度・高品質穴加工法が広く市場に受け容れられるか、コスト面からも検討すべきであろう。 ・実用化普及の発表を行えば、技術を求めている企業もあると思う。

③ (基盤技術開発研究・継続)

表面硬化処理を施した機械要素部品の疲労設計法の確立 (H24-26)

中期計画関連 加工技術、計測技術及びシステム化技術の高度化に関する分野

総合評点：3.86

評価コメント

硬化層の厚みを良く検討すること。年度毎の研究課題を整理し、研究の新規性を明確にすること。歯車の性能、他の特性と今回の研究対象(疲労強度)との相関関係を明確に示すこと。

その他、各委員の主なコメント

- ・設定した研究目標に対して、着実に研究成果を上げていると思われるが、従来の研究との比較が必要である。
- ・歯数や噛み合い率等が解析結果に影響を及ぼす為、硬化層深さについて解析条件の妥当性についても検討する必要があると思う。
- ・シミュレーションの結果は数値で示すべきである。
- ・波及効果が高い浸炭焼入及び歯車の疲労設計法の確立を求める。
- ・材質による違いの推定方法も目途をつけてほしい。

④ (基盤技術開発研究・継続)

冷却ノズル応用レーザー加工技術の研究 (H24-25)

中期計画関連 加工技術、計測技術及びシステム化技術の高度化に関する分野

総合評点：3.83

評価コメント

理論的な裏付けを明確にし、セラミックス加工等の文献調査により研究の新規性を明確にすること。切断スピードや厚さなどの定量的評価基準を明確にすること。シミュレーション技術を活用し再現性の確保を図ること。

その他、各委員の主なコメント

- ・特許や研究発表も行われており、当初計画通り着実に研究成果を上げていると思われる。
- ・ドロス除去及び安定化について、アシストガスや冷却ガス条件設定や冷却ノズル、サイドノズルに対する熱流体的アプローチの工夫をしてはどうか。
- ・レーザーを利用したガラスやセラミックスの切断に関して、類似研究との優位性をアピールする必要がある。
- ・公的研究機関との技術相談も活用してはどうか。
- ・ワンタッチでの小さいノズル形状のものが出来ると良い。

⑤ (基盤技術開発研究・継続)

電気自動車の運動予測シミュレーションと車両システム制御に関する研究 (H23-25)

中期計画関連 加工技術、計測技術及びシステム化技術の高度化に関する分野

総合評点：3.44

評価コメント

この研究成果をもとに、実機や県内企業に対するモデルベース開発手法の有用性や効果実証に期待する。

その他、各委員の主なコメント

- ・特許出願や研究発表も行っており、着実に研究成果を上げていると思われる。乗り心地制御に関するロジックの効果は評価できる。
- ・制御対象を取り扱う企業との共同研究や協力分担をする努力が必要と思う。
- ・制御設計におけるモデルベース開発手法の有用性を電気自動車の車両システム制御にこだわることなく広く県内企業に、紹介すべきである。
- ・研究テーマのタイトルに少し無理が生じているのではないか。研究目的、手法、成果の関係が把握しにくい。

⑥ (基盤技術開発研究・継続)

非接触測定による三次元形状評価に関する研究 (H24-25)

中期計画関連 加工技術、計測技術及びシステム化技術の高度化に関する分野

総合評点：3.78

評価コメント

スプレー作業の定量化を図るべきである。より簡易な計測方法も検討し、大型・複雑金型への適用も検討して欲しい。対象を絞り込んだ高精度化への挑戦に期待する。

その他、各委員の主なコメント

- ・当初計画通り着実に進捗していると思われる。最終目標達成は可能であると思われる。実用化に向け最終成果に期待する。
- ・技術講習会や次世代ものづくり人材育成セミナーを通じて普及を図るだけでなく、学協会を利用しての成果発表も考えてほしい。
- ・多点測定データを統合し高精度化するアルゴリズム開発などが汎用性あり、特許化も可能かと思う
- ・照明誤差、スキャン時間データ、論理的アプローチが必要と思う。

⑦ (基盤技術開発研究・継続)

オキシカーバイド皮膜の耐食耐摩耗材料としての適用に関する研究 (H24-25)

中期計画関連 無機材料の加工技術、エネルギー関連技術及びリサイクル技術に関する分野

総合評点：4.47

評価コメント

もう少し絞り込んで研究対象を設定し、量産性・コスト面での検討を行うこと。

その他、各委員の主なコメント

- ・設定した研究目標に対して、着実に研究が進捗しており、最終目標達成は可能であると思われる。広い用途が期待できる。
- ・実機に用いる場合は、応力場での耐摩耗・耐食性がどうかと考える。スクラッチ試験だけでなく、エリクセン試験なども考えてはどうか。
- ・食品関係で利用可能か検討して欲しい。
- ・特許出願や学協会を利用しての成果発表も考え、研究成果の普及を目指して欲しい。

⑧ (基盤技術開発研究・新規)

粉末固相接合による部分強化傾斜機能金型の開発 (H25-26)

中期計画関連 無機材料の加工技術、エネルギー関連技術及びリサイクル技術に関する分野

総合評点：4.08

評価コメント

文献調査による新規性を明確にし、コスト、耐久性、メンテナンス等の検討をすること。普及効果大きいと思われるので期待する。

その他、各委員の主なコメント

- ・設定目標、研究手法、年度別計画は概ね妥当である。研究協力機関や他の機関と広く協力して、外部資金獲得を目指して欲しい。
- ・コスト、耐久性、メンテナンス性などのメリット・デメリットを他の既存技術や方式と比較してみると良い。
- ・ものづくり産業における金型需要は大きく、新しいプロセス技術の開発は重要である。製造業への波及効果も大きいものと考え実用化に向け期待する。



平成25年3月19日

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター
実用化評価委員会
委員長 田中 久隆 様

食品開発分科会

分科会長 川崎 賢一



審議結果報告書

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター研究評価委実施要綱に基づき、食品開発分科会の基盤技術開発研究及び実用化促進研究について評価を行いましたので、その審議結果を報告いたします。

1 食品開発分科会開催日程

日 時 平成25年3月7日(木) 午前8時30分～午後2時40分
場 所 地方独立行政法人鳥取県産業技術センター 食品開発研究所
境港市中野町2032-3

2 食品開発分科会委員 (五十音順)

川崎 賢一	学校法人近畿大学	前農学部教授
小堀真珠子	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所	食品機能研究領域 上席研究員
小森 啓子	有限会社いけがみ	代表取締役社長
須山 修次	須山醤油株式会社	代表取締役社長

※須山委員は都合により分科会欠席であったため、評価は他の3名の委員で行った。

3 備考

- (1) 複数年度の場合は、研究進捗の表現は当該年分も含めて表記すると分かり易い。
- (2) 評価点で標準(基準点)があると評価し易い。
- (3) 実用化までの見極めには研究期間が短いと感じられるものや実用化促進研究よりも基盤技術開発研究と考える方が良いものもある。

4 審議結果

評価は研究評価実施要綱第9条から第11条第1項までの規定に基づき行った。各委員による採点及びその集計結果については別資料を参照されたい。

なお、評価コメントは完了課題については今後の課題として残る事項を、継続課題については今後の発展に向けての留意事項を、新規課題については効率的な推進に向けての注意すべき事項を委員間で共通認識としたものとして記載した。

①（基盤技術開発・完了） 試験管内試験 (in vitro) による新しい機能性評価法の開発と素材評価への応用 (H23-24) 中期計画関連 機能性食品・素材の高付加価値化に関する分野
総合評点：4. 4 4
評価コメント 論文発表をして外部の評価を得て、公定法になるように努力をしてほしい。早期の実用化に期待する。
その他、各委員の主なコメント ・機能性検査の簡易な検査法は業界の求めるところである。早期に企業への技術移転が実現することを期待する。 ・一年間で、更なる成果を、上げている。鳥取県で製品化できると良い。 ・目標は達成しているが、これからの実用化への課題が残っていると思う。 ・GR法について論文発表を勧める。

②（基盤技術開発・継続） 糖類ゼロ低アルコール清酒の製造技術に関する研究 (H24-25) 中期計画関連 発酵利用に関する分野
総合評点：4. 0 6
評価コメント 低アルコール酒はニーズがある。実用化に向けて、味・香りを含めた研究が必要である。
その他、各委員の主なコメント ・低アルコール、低糖質の日本酒の開発は、完成すれば消費者ニーズに添った製品になり販売拡大につながるものと期待される。 ・日本酒業界にとっても重要な研究と思う。 ・実用化には多くの課題が残っていると思うので、道すじを明確にする必要がある。

③（基盤技術開発・継続）

おいしさを指標にした新たな冷解凍熟成新鮮魚の開発（H24-26）

中期計画関連 地域資源活用食品に関する分野

総合評点：4.28

評価コメント

見た目（色）の変化が一番の課題と思う。独創性が高く、実用化を目指すべきだが、時間がかかる課題なので、じっくり達成してほしい。解凍技術の検討も必要と思う。

その他、各委員の主なコメント

- ・当初計画になかった色調劣化を研究に追加したことは評価できる。
- ・冷凍魚が生鮮魚と比べて、遜色のないこと、またそれ以上においしいことを証明できれば、今後の魚類流通の新しい流れとなると思われ、大いに期待される。
- ・地元で水揚げされたブリ（魚）の販路拡大につながり、マグロに負けない商品になるのではと思う。
- ・冷凍魚は加工品としての販売であるが、刺身として販売するのであれば、テクスチャーの変化も研究に取り入れる必要がある。

④（基盤技術開発・新規）

赤色色素を生成する麹菌を利用した発酵食品の開発（H25-26）

中期計画関連 発酵利用に関する分野

総合評点：3.83

評価コメント

具体的な用途開発が必要である。色の安定化技術の開発を研究計画に入れてはどうか。また、赤色を使うことの明確な理由が必要である。

その他、各委員の主なコメント

- ・実用化されればインパクトのある内容だと思う。
- ・赤色の清酒の製造が期待されるが酒以外の食品に利用できないか。
- ・赤色の安定性、耐光性が課題と思うので、赤色色素成分の固定と安定化技術の開発を進めるとよいと思う。

⑤（基盤技術開発・新規）

萌芽組織形成を目指した生体由来素材による三次元培養法の開発（H25-27）

中期計画関連 機能性食品・素材の高付加価値化に関する分野

総合評点：4.67

評価コメント

技術移転に向けて、採算性が課題である。また、技術移転可能なパートナーを早期に見つけることが重要である。

その他、各委員の主なコメント

- ・未利用資源活用、実験動物の代替、移植用真皮等の技術が完成されるのが楽しみ。
- ・再生医療の現場で利用できれば、新規バイオ産業の発展が期待できる。
- ・産業化する場合、漁獲後の原料の取り扱いについての研究も必要と考える。

<p>⑥（実用化促進・完了） 西条柿ピューレの品質保持技術の確立（H23-24） 中期計画関連 地域資源活用食品に関する分野</p>
<p>総合評点：4. 33</p>
<p>評価コメント 汎用性があるピューレで、ブロック状のものもあれば、さらに使い易くなると思う。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発された各技術は加工品製造に十分に実用可能で、果実ピューレ製造以外にも有効な技術であり、今後の事業化への発展が期待される。 ・問題点も解決され、更に品質も向上し、商品化出来る所まで来ている。新たに開発された技術が導入されることを期待する。

<p>⑦（実用化促進・完了） 油脂等の機能性素材の高品質化と応用技術の開発（H23-24） 中期計画関連 機能性食品・素材の高付加価値化に関する分野</p>
<p>総合評点：4. 61</p>
<p>評価コメント 事業化に向けた課題も提案されており、企業との連携も取れていることから実用化は近いと考える。また、カニ殻由来であり、他社商品と差別化できると思う。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初の計画より縮小したが、アスタキサンチン抽出に絞ったことで、実用化できる技術が完成し事業化が期待される。 ・国内産原料であり差別化、未利用資源活用という点でも素晴らしい。 ・他の商品との差別化ができれば可能性は高い。

<p>⑧（実用化促進・継続） 沖合底曳き魚の高品質生食用処理技術の開発（H24-25） 中期計画関連 地域資源活用食品に関する分野</p>
<p>総合評点：4. 00</p>
<p>評価コメント まずは「基盤技術開発研究」として実施してはどうか。船上での作業性の向上に繋がる技術になれば良い。</p> <p>その他、各委員の主なコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有望な技術が見出されつつあり、実用化に向けて研究を進めてほしい。 ・大切な資源を無駄にしない、従事者の労働内容の向上など、必要な研究と思う。 ・水揚げ後の船上での処理は実質的に可能か検討が必要である。 ・ぬめりだけでなく内臓も臭いに関連が高いのでどのように処理するかが課題と思う。